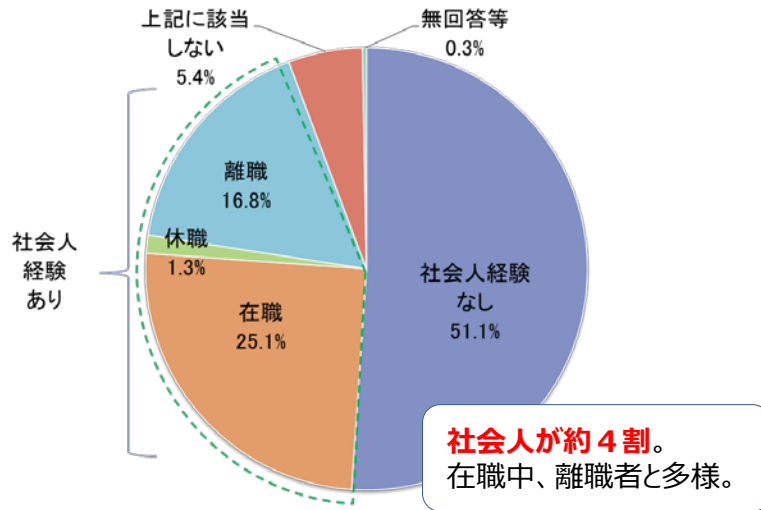




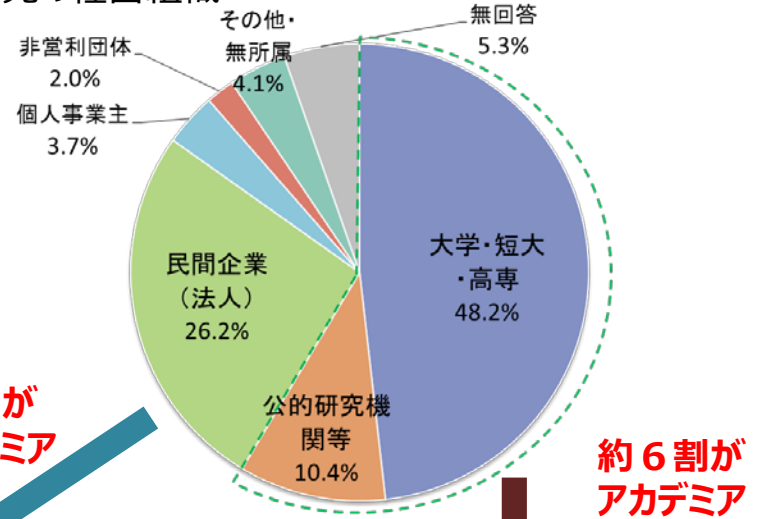
問題提起： 博士人材のキャリアパスとしてのURA

2017年6月29日
科学技術・学術政策講演会
文部科学省 科学技術・学術政策研究所
第1調査研究グループ
総括上席研究官 松澤 孝明

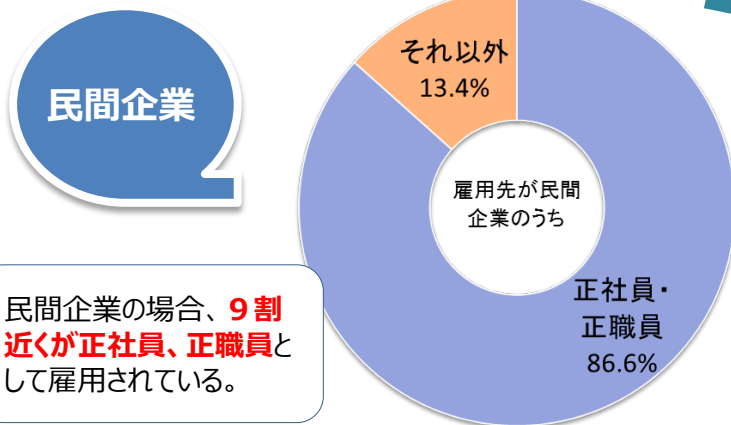
博士課程在籍時の就業状況



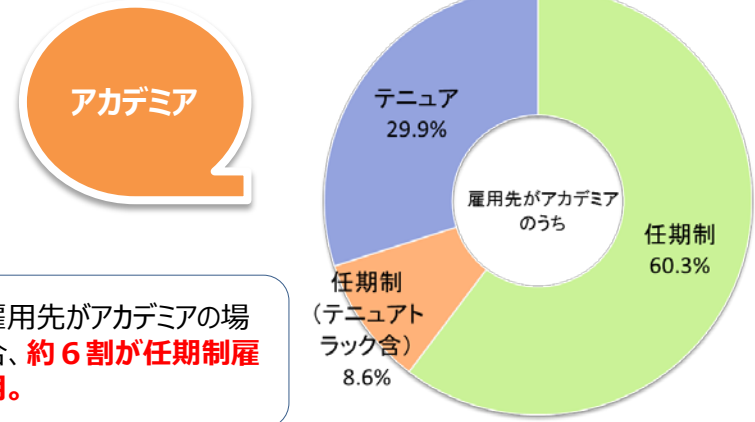
雇用先の経営組織



民間企業における雇用形態



アカデミアにおける任期制雇用



実際の職業選択（2012年度博士課程修了者の1年半後の状況）を見ると
非アカデミアの職業は、**研究者、製造技術者（開発）、医師**で6割近くを占める。
これ以外に、今後、**拡大可能性があると**思われる職業を5つの領域に分類している。

回答数の多い職業分類 （課程学生、かつ非アカデミア）

職業分類	比率
研究者（自然科学系・人文社会科学系）	20.7%
製造技術者（開発）	21.9%
医師	13.6%
合計	56.2%

注：「日本標準職業分類（平成21年12月統計基準設定）」に準じ、博士に対応したコードに調整した分類。（全52種）

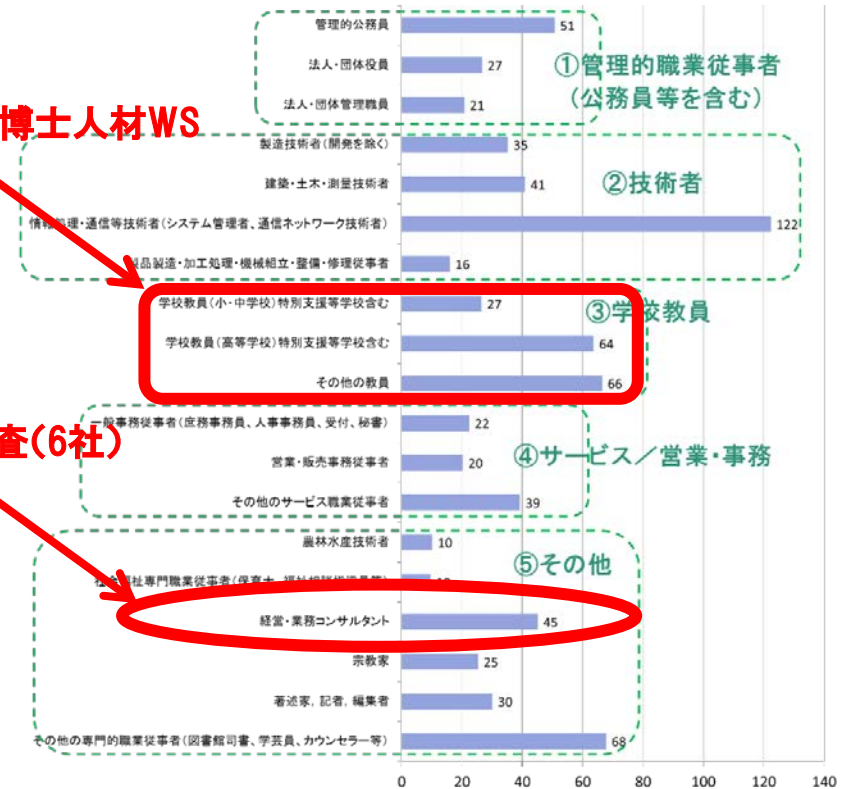
注：右図は回答数の多い、研究者、製造技術者（開発）、医師、医学系の職業を除き、少数回答をグラフ化したもの。
【※人数は回答数を基に、母集団推計した値】

対象者数 （大学報告による）	15,477
有効回答数	5,052 （回答率 38.1%）

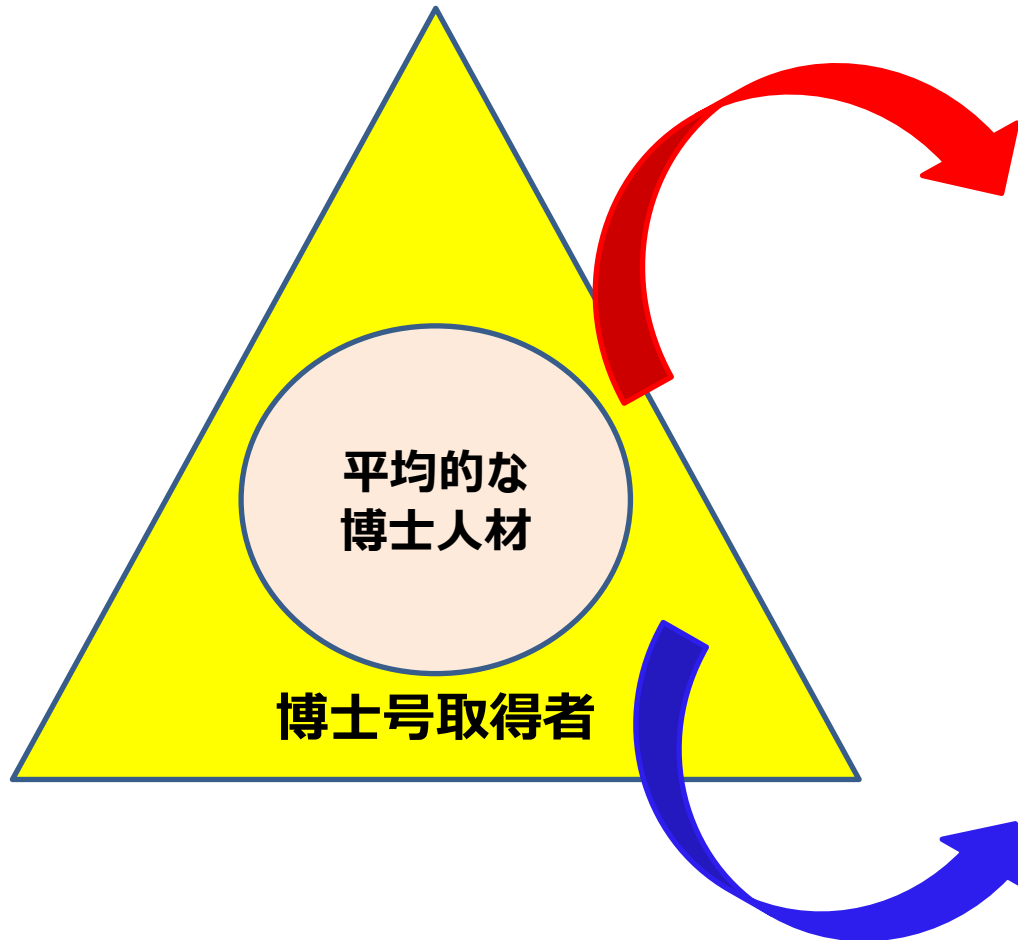
就業拡大可能性のある職業 （課程学生、かつ非アカデミア）

第1回博士人材WS

インタビュー調査(6社)



平均的な博士課程修了者が目指すキャリアパスとして
アカデミアにおける職種拡大の可能性はあるのか？



6割

アカデミア（大学等）

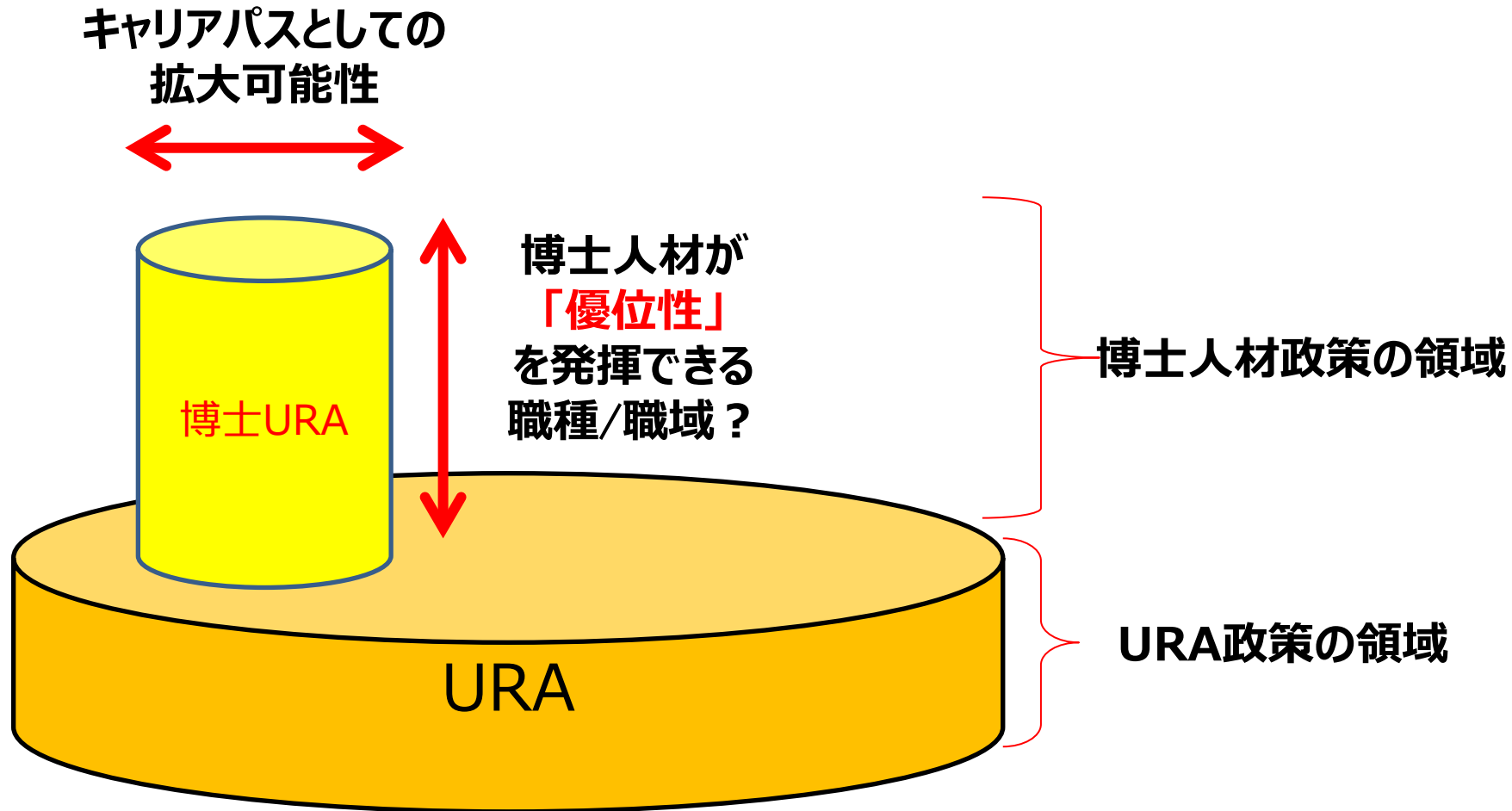
研究者

「新しい職種」の可能性は？（例：URA）

3割

非アカデミア（民間企業等）

- ・大企業中心、9割が正社員
- ・5つの拡大領域



URAとは多様な職種/職域を内包し、その中には
博士人材が優位性を発揮しうる職種/職域があるのではないか？

1. URAにおいて博士人材は**優位性**を発揮することができるのか？
2. 博士人材のキャリアパスとしてURAが**魅力ある職種**となるためにはどのような課題があるか？
3. 博士人材のキャリアパスとしてURAは**拡大可能性**はあるか？
そのための課題は何か？



講演1：URAの現状と課題（概観）

講演2：博士人材のURA活用事例（岡山大学）（事例研究）

質疑応答、ディスカッション（モデレーター：門村幸夜 客員研究官）